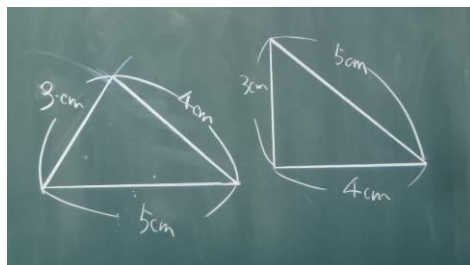


はにい

作図

平成26年2月7日



黒板に描かれた二つの三角形。向きは違いますが、三辺の長さがそれぞれ同じです。しかし、角度はどこも分かっていません。

今日は、三角形の合同条件について考える授業です。まずは、自分の手で作図してみることが大切。みんな作図の道具を取り出しました。

一人の生徒は、定規で、正確な3cmの線分を引いています。「わたし、すぐすれちゃうのよね。」

左手の指を揃え、定規の端を支えます。右手の指先で定規の位置を決めたら、左手でしっかり固定して定規が動かないようにします。

シャーペンの芯の先を定規の0mmの位置にあてたら、定規の縁に添いながら芯先を滑らせる。3cmのところまで。左手は定規がずれないようにしっかり押さえながら、右手は、芯先が浮いたり外れたりしないように、細心の注意を払います。

別の一人の生徒は、コンパスを取り出しました。

まずは、鉛筆の長さの調節です。ネジを緩め、鉛筆をずらしながら針の先と芯の先を見て調節します。描きやすい位置でネジを締め直し、鉛筆を固定。

調節が終わった子は、コンパスの半径を定規で4cmに調節しています。針先を0mmの位置に付け、芯先を4cmの位置に合うように、コンパスを広げます。ノートに書いた線分の端点に針先を軽く刺し、そこから針がずれないように指先でコンパスを押しながら、芯先で紙面に半径4cmの弧をいいていきます。

分度器で角度を測ってみる子もいます。

描いた三角形の頂点に分度器の中心をあて、慎重に辺を分度器の0°の線に合わせます。

「わたし」の指が描いた正確な三角形ができあがりしました。



『はにい』は、コミュニケーションツールです。 みんなで語り合しましょう。
専用メールアドレス： inochi4027@pref.kanagawa.jp